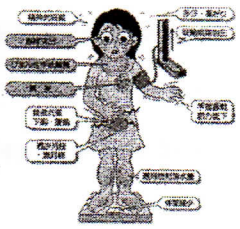
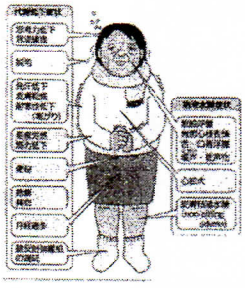
無月経
代謝活発 → 汗をかく
いらいらしてしまう
下痢
頻脈

むくんでくる
月経過多
徐脈
便秘
思考力低下
汗をかかない → 皮フのかんそう

バセドウ病



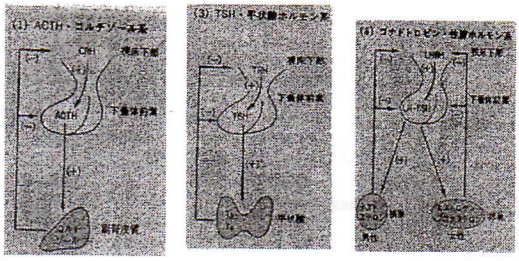
甲状腺機能低下症

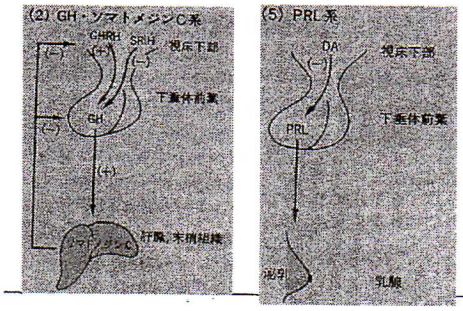


上縁・下縁
きょうまく が見えると
眼球突出!!

粘液水腫
顔がはれぼったい
まぶた重い
ムコタン糖により

視床下部—下垂体—末梢内分泌臓器のネガティブフィードバック機構 1





内分泌試験の考え方

ホルモン作用不足が考えられる病態 ⟶ 分泌刺激試験

Ex. 下垂体前葉機能低下症

適切な分泌刺激で分泌しなければ機能低下

ホルモン過剰分泌が考えられる病態 ⟶ 分泌抑制試験

Ex. GHの過剰分泌（末端肥大症）
ACTHの過剰分泌(Cushing病)

分泌抑制刺激でホルモン低下しなければ、自律性過剰分泌

甲状腺疾患以外はホルモン基礎値のみでは判定できない事が多い。

下垂体疾患

1. ホルモン産生下垂体腺腫によるホルモン過剰症
   - 先端巨大症
   - プロラクチン(PRL)産生腫瘍
   - (Cushing病：副腎で解説)
2. 下垂体機能低下症
   - 原因はいろいろ(腫瘍、炎症、特発性)